

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立京都八幡高等学校（南） 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	1. 高校3年生 1組23名 2組19名 計42名 2. 高校2年生 1組23名 2組19名 計42名 3. 女子ソフトボール部
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 () ③ その他 (部活動 女子ソフトボール部) (2) 地域における活動 ① イベント名 (京都府立学校ソフトボール交流大会) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	八幡支援学校との交流や保健体育の授業において、ニュースポーツ・パラリンピック種目を体験することで身近なスポーツとして関心を高めるとともに、サポートの在り方からの関わりを学び、福祉マインドを深める。
5 取組内容	1. 教科において障がい者スポーツ・ニュースポーツの実施 I (1) 対象 高校3年 1組 23名 2組 19名 計 42名 (2) 日時 6月、9～11月の体育の授業（1単位）において実施 (3) 場所 本校体育館 (4) 内容 ① 車いすバスケットボール、シットイングバレー、ペタンクの3種目を3グループに分かれて1時間1種目を順番に、各種目2回ずつ実施。 ② ゴールボール、ボッチャは、実習や授業の関係で1クラスしか授業がない時期に実施。

車いすバスケットボールの様子



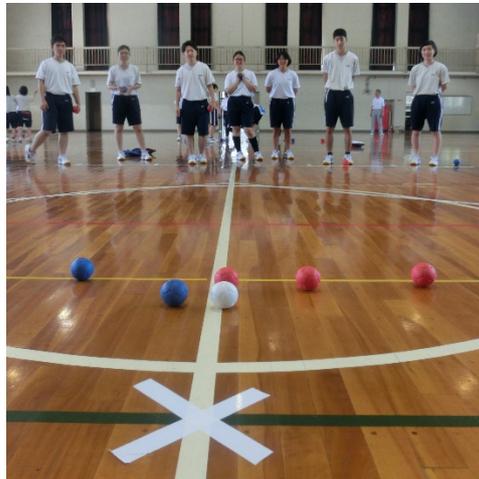
シッティングバレーの様子



ゴールボールの様子



ボッチャの様子



2. 教科において障がい者スポーツの実施Ⅱ

- (1) 対象 高校2年 1組23名 2組19名 計42名
- (2) 日時 1組5月、2組7月の体育の授業において実施
- (3) 場所 本校体育館
- (4) 内容 フライングディスク（アキュラシー）は、実習や授業の関係で1クラスしか授業がない時期に実施。

フライングディスク（アキュラシー）の様子



（肢体不自由の部 車いす使用）



（視覚障害の部 アイマスクの着用）

3. 本校女子ソフトボール部と八幡支援学校ソフトボール部との部活動交流の実施

- (1) 対象 女子ソフトボール部と八幡支援学校ソフトボール部
- (2) 日時 7月31日(火) 9:00~12:00
- (3) 場所 本校北キャンパスグラウンド
- (4) 内容 合同練習のメニュー
 - ① 集合・挨拶・自己紹介
 - ② 準備体操・ダッシュ
 - ③ キャッチボール
 - ④ バッティング練習 横からのフリーバッティング
 - ⑤ 守備練習 内野ノック・外野ノック・実践ノック
 - ⑥ 練習試合
 - ⑦ 集合・まとめ・挨拶・片付け



4. 本校女子ソフトボール部と八幡支援学校ソフトボール部との部活動交流「京都府立学校ソフトボール交流大会」への参加

- (1) 対象 本校女子ソフトボール部八幡支援学校ソフトボール部
- (2) 日時 8月22日(火)
- (3) 場所 山城総合運動公園グラウンド
- (4) 内容

- ① 準備・準備体操・ダッシュ・キャッチボール
- ② 開会式
- ③ 1試合目 vs 聾学校・北嵯峨高校合同A
- ④ 2試合目 vs 聾学校・北嵯峨高校合同B
- ⑤ 合同守備練習 内野ノック・外野ノック・実践ノック
- ⑥ ホームラン競争
- ⑦ 閉会式
- ⑧ 片付け・集合・まとめ・挨拶

試合の様子





6 主な成果

1. 2. 障がい者スポーツへの関心と理解の深化

本校は将来、対人援助職に就きたい生徒が多い専門学科（人間科学科・介護福祉科）であるため、3年生になると2学期の体育1単位にて障がい者スポーツを実施している。また、授業や実習の関係で1クラスのみ授業があるため、少人数で実施する障がい者スポーツを実施している。少ない時間数ではあるが、専門学科の中で3年間学んできた「福祉マインド」をスポーツの分野においても理解を深めることができた。また、取組の中でアイマスクや車いす等を使用しながら行うことによって、ただ不便に感じるのではなく、身体の使い方や声かけの工夫などを互いにアドバイスをし合ったりする姿が見られた。

3. 4. スポーツ交流を通じた仲間の育成

合同練習初日は、1年生の部員のみであったため、集合・W-upの段階では初めて行う支援学校との合同練習に戸惑っている様子が見られた。しかし、キャッチボールを通じて、プレー面でのできること・できないことがあるのは、どのプレーヤーも同じであることに気づき、個々の技術に合わせて各ペア、キャッチボールを行うことができた。支援学校の選手は、かけ声を出すことを恥ずかしがっていたが、本校の選手に良い影響を受け、少しずつ元気にプレーすることができ、ノックを実施するころには一緒に声を出すことができるようになっていた。

大会当日は、3年生の部員も参加していたため、昨年までの関係性もあり、自然な形で率先してチームの雰囲気を作り出してくれた。緊張

	<p>していた1年生も支援学校の選手も巻き込み「1つのチームとして試合を楽しむ」ことを目標とし、活動することができた。試合中は、プレーに対して声を掛け合い、ハイタッチをするなど、ゲームならではの面白さを一緒に共有することができていた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>1. アク્યラシー 立位だけでなく、下記のように各部門を設けゲームを実施した。 例) ①5m ②5m肢体の部(車いすに乗車) ③5m視覚障害の部(アイマスクの着用、サポーター) ④7m ⑤7m肢体の部 ⑥7m視覚障害の部 アイマスクや車いす等を使用し、障がいに対して、共感的・体感的に経験できるよう工夫した。</p> <p>2. ゴールボール(用具の工夫) ビニールテープにラインテープで印を取りつけ、それを体育館のフロアに貼り付けることで競技に必要なコートを作成した。 また、「I'm POSSIBLE」を活用し、ルールやコート図の確認等を簡単に行うことができた。</p> <p>3. ソフトボール部との交流 今年度初めて「京都府立学校ソフトボール交流大会」を開催していただき、他校チームとの試合をすることができた。ただ単に大会があるから出るのではなく、大会に出場する目標を持ちながら合同練習を実施することができたのが、なによりも効果的であった。</p>
8主な課題等	<p>パラスポーツを実施するためには、専用の用具が必要となる種目が多い。そのため、他校で実施される場合は、経済的な課題が大きいと考える。本校は、本事業実施前から所有する用具と数年間に渡る本事業予算で購入した用具とを、専門学科の特性を活かし年間授業計画の中で全生徒に体験させることができています。大規模校など、たくさんの方で一度に体験することは難しいため、実施の仕方には工夫が必要であると考えます。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今年度同様、次年度以降も体育の中でニュースポーツ・障がい者スポーツを実施していく予定である。</p> <p>八幡支援学校との交流については、今後も部活動交流も含め、授業での交流、昼休み交流や行事交流を通じて日常的に実施していく予定である。</p>